

集特水能機

珪素関連の最新データを発表

日本珪素医療研究会

第5回会合を開催 医療関係者ら約20人が参加

医師や医学博士が、珪素を活用した医療などについて情報交換を行うことを目的に設立された日本珪素医療研究会（事務局東京都、☎03-35



副会長の大阪大学・大山良徳名誉教授



事務局長のAPAコーポレーション・岡田憲己社長

10-7050）は7月16日、第5回会合を開催、医療関係者ら約20人が参加した。参加した医師や研究者からは、水溶性珪素（ウモ）は、原料メーカーのAPAコーポレーション（エーピーイー、本社愛知県、岡田憲己社長、☎0566-9216257）が提供している。

発表や、珪素関連の最新データの発表などが行われた。なお、同会の研究材料である「水溶性珪素（ウモ）」は、原料メーカーのAPAコーポレーション（エーピーイー、本社愛知県、岡田憲己社長、☎0566-9216257）が提供している。



第5回会合には医療関係者ら約20人が参加した

大阪大学の大山良徳名誉教授が登壇、「こうした研究会を定期的に開こうというのは素晴らしい」などと話し、次回からは座長を設けるかたちで本格的に行う「はどうか」と提案した。

発表では、ブルークリニック青山の内藤眞禮生院長が最初に登壇した。内藤氏は、独自の手法で、自閉症やADHDに対する治療を行い、実績を挙げている。同氏は「自閉症やADHDの原因の一つは、水銀や環境ホルモンによる汚染」とする自説を紹介。特に、歯科医療で使われるアマalgamから蒸発する水銀の有害性について説いた。その上で、自閉症やADHDの治療に当たって、水溶性珪素を含む複数の食品素材を用いていることを紹介。具体的な症例を基に、治療効果について説明した。

健康を意識した成分を水に配合したさまざまな「機能水」の展開が広がっている。14年〜16年にかけて、水素水がブームとなり、15年は水素関連商材の市場規模が270億円にもなったとされている。16年5月に一部報道で、水素水の健康に与える影響の不確実性が指摘されたことを発端に、行政が規制の手を強めたり、ネガティブな報道が繰り返されることになった。水素業界は縮小気味となった。ただ、水素を愛用する消費者は多く、引き続き着実に販路を開拓する事業者も多い。一方で、水素に代わる新たな商材の開発も着々と進められている。

ジェイウオーター

矢野慎一 会長

森永乳業「メイ たきかけは。

に頼らない天然水プラス、天然水に成分を配合する商品展開ができないかと考えていた。そんな折に、森永乳業のラクチュロス（ミルクオリゴ糖）やシールド

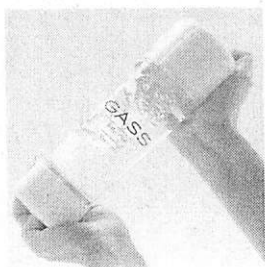
中女性の女性がメインターゲットだ。若い女性にも利用してもらえよう、商品名やパッケージにもこだわった。「メイフローラ」とは「5月の

ない。善玉菌のエサとなる水の開発を考えた。腸内環境の改善は即ち、便秘改善へとつながり、ニキビ、肌荒れ、ダイエットにも好影響が期待

で商品をお届けし使い続けていたことが結果を生むと考えている。「メイフローラ」の他に、今後はどのような商品の開発を行う予定

「結果が出れば、皆さんにも報告させていただきます」と話した。岐阜大学工学部の横田康成教授は、水溶性珪素の持つ血管強度向上作用

「ガス ハイドロゲンウォーター」



発生するものが多いため、高濃度の水素水の生成が難しく、すぐに濃度の低下が起きてしまうという。同社の生成器は、マグネシウムと水の化学反応で水素を発生させる。そのた

続いて、愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの教授兼センター部長を務める福沢嘉孝医学博士が登壇、水溶性珪素についてヒト臨床試験の準備を着々と進めている

マッセ（本社大阪府、西協啓之社長）は、高濃度の水素を生成させるタンブラー「GAS HYDROGEN WATER（ガスハイドロゲンウォーター）」を販売している。OEMでの製造も行っており、大手美容系メーカーとの取引もある。15年6月に販売を開始し、2年で累計10数万本を販売した。市場での流通量が多い、電気分解による水素生成器では、水素ガスと酸素ガスが同時に

3年で10万

水素水タンブニ